

第2章

将来目標の設定

1. まちづくりの目標
2. 将来都市像
3. 将来フレームの設定
4. 将来都市構造

1. まちづくりの目標

目標1 既存ストックを活かしたコンパクトなまちづくり

少子高齢社会の進展や市民ニーズの多様化、都市運営コストの増大、地域間競争の激化などが予想される中で、七尾市が将来にわたり能登の中核都市として繁栄していくことができる魅力的なまちを目指します。

既成市街地の再構築や、既存ストックや恵まれた自然環境を活かした地域活力の創出などにより、都市運営、都市の成長管理を意識した、コンパクトで持続可能なまちづくりを進めます。

目標2 誰もが暮らしやすく、多様なライフスタイルを楽しめるまちづくり

2つの総合病院を持つ充実した医療・福祉環境、大規模商業施設や公共施設などの集積を活かしながら、身近な生活基盤整備やバリアフリー化、総合的な安全・安心なまちづくり、美しい景観形成や緑化などによる個性あるまちなみの形成、教育環境の充実などにより、誰もが住みやすく全ての人にやさしい、市民の生活目線に立ったきめ細やかなまちづくりを進めます。

単に利便性の高い都市的な住まい方だけでなく、七尾湾や能登島をはじめとする美しい自然や固有の歴史・文化に囲まれた癒しのある空間や二地域居住などの新たな住まい方の提供により、多様なライフスタイルを楽しめるまちを目指します。

目標3 地域の宝を活かした観光交流型のまちづくり

良好な自然景観や、七尾港、和倉温泉、能登歴史公園、能登演劇堂など、各地域が有する自然・歴史・文化などの資源を保全し次世代へと継承していくとともに、和倉温泉を中心として資源間の回遊性の向上を図り、活力とにぎわいのあるまちづくりに向けて地域の宝を活かした観光交流型のまちづくりを戦略的に進めます。

目標4 交流・連携軸の強化による地域の強みを活かし弱みを補うまちづくり

広域交流の軸となる能越自動車道の整備を促進するとともに、分散立地する各拠点の魅力や活力を創出し高めていくため、それぞれの地域が持つ課題を補完し、相互の交流・連携を支える道路網を確立します。

公共交通は、七尾市にとって不可欠な交通手段であるため、有効活用に向けて、JR七尾線・のと鉄道七尾線やコミュニティバス、路線バスなどの強化・充実、相互の連携向上を図り、快適な移動を誘発するネットワークづくりを進めます。

目標5 市民と行政の協働による誇りと愛着を育むまちづくり

市民の誇りや愛着を育み、市民と行政の協働のまちづくりを実現するため、市民のまちづくりに関する意識を高めるとともに、暮らしやすさを高めようとする主体的な取り組みを適切に育んでいきます。

まちづくり活動だけでなく、教育・文化やスポーツ活動、子育て活動などあらゆる機会においても協働の関係づくりに努め、多様な主体によるまちづくり活動が活発化していく仕組みを構築します。

2. 将来都市像

七尾市は、石川県の北部、能登半島の中央に位置し、七尾港を海の玄関口として、古くから能登地域の中心地として栄えてきたまちです。これまで、国定公園に指定されている能登島をはじめとする豊かな自然、歴史的価値の高い能登国分寺跡や七尾城跡などの貴重な文化財、和倉温泉などの恵まれた地域資源を活かした観光を基幹産業として、まちの活力向上に努めてきました。

第1次七尾市総合計画では、七尾市の未来を担い、様々な分野で輝き、活躍する人づくりを目指すとともに、日本や世界中の人々を引き寄せ、来訪者と市民がその魅力を体験・感動し、交流する「交流体感都市」の実現を図り、「世界に誇れる人と地域」を目指して、将来像として「人が輝く 交流体感都市」を掲げています。

都市マスタープランでは、都市づくりの基本理念としてこれを踏襲し、その実現に向けた具体的なイメージ（将来都市像）を以下のとおり設定します。

地域の宝を市民が育む 「住み続けたい・訪れたいまち」

【地域の宝】

七尾市の歴史と風土に生まれ継承されてきた豊かな自然や歴史的価値の高い貴重な文化財、和倉温泉などは七尾市固有の財産であり、今後のまちづくりを進める上でもきわめて重要な「地域の宝」であるため、それぞれの特性を活かしながら積極的にまちづくりに活用していきます。

【市民が育む】

これからのまちづくりの主役は市民一人ひとりであり、総合計画策定時の市民意識調査の結果からも「市民協働の仕組みづくり」を求める意見が多くなっています。

市民と行政の協働により、七尾市固有の地域の宝を一つ一つ磨きあげて、それぞれの地域の魅力を高めていきます。

【住み続けたいまち】

他都市には見られない個性豊かな資源は、七尾市に住む全ての人にとっての誇りです。市民・行政が一体となって、若者が定住できる、高齢者にとっても生活しやすい環境を整え、全ての年代の人が誇りを持って住み続けることのできるまちを創っていきます。

【訪れたいまち】

今後の人口減少社会においても都市の活力を維持・向上していくため、市民や来訪者など、全ての人が七尾市の魅力を体感し、交流することにより、七尾市民だけでなく、来訪者にとっても何度でも訪れたい魅力的なまちを創っていきます。

3. 将来フレームの設定

(1) 対象とするフレーム

目指すべき将来都市像として、「定住（住み続けたいまち）」と「交流（訪れたいまち）」を設定しており、地域の資源を活かした交流を軸としたまちづくりの促進による都市活力の維持を図るため、定住人口フレームに加えて、交流人口フレームを設定します。

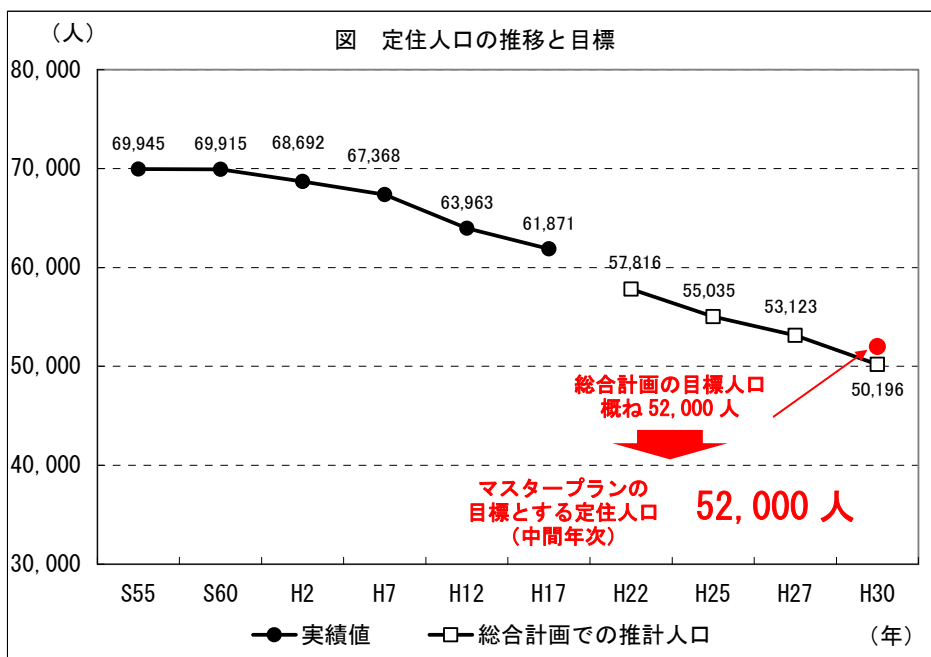
上位計画である第1次七尾市総合計画では平成30年の人口フレームを設定していることから、本計画では中間年次である平成30年の人口フレームを設定した上で、目標年次である平成40年については、人口フレームのあり方のみを示すものとします。

(2) 定住人口フレーム

① 七尾市全体の定住人口

第1次七尾市総合計画では、重点的かつ戦略的に各施策を展開することにより、できるだけ人口減少を抑制するものとして、平成30年の人口を52,000人と設定しています。

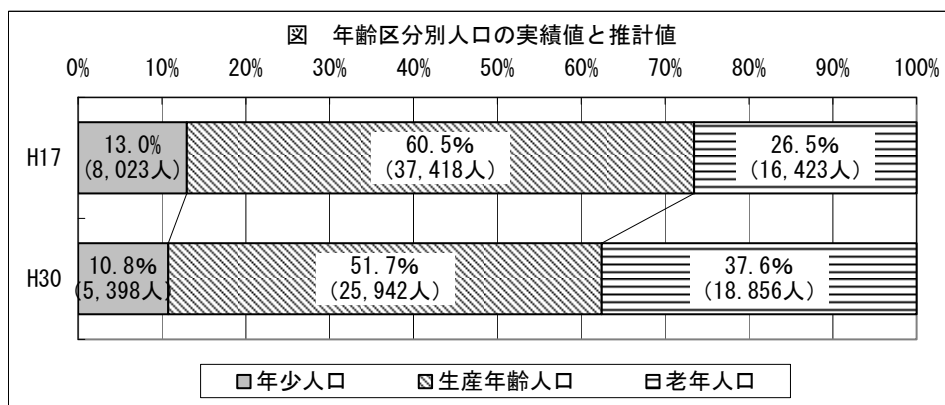
本計画においては、中間年次である平成30年については、第1次七尾市総合計画と整合を図り、目標人口を52,000人とします。目標年次である平成40年については、人口が更に減少していくことが予想されており、人口の定着に向けた質の高い生活空間づくりに官民協働で取り組むとともに、二地域居住[※]やUターン[※]・Iターン[※]・Jターン[※]の促進に向けた取り組みを積極的に進めることにより、減少幅の縮小を目指します。



- ※二地域居住：都市住民が、本人や家族のニーズ等に応じて、多様なライフスタイルを実現するための手段の一つとして、農山漁村等の同一地域において、中長期（1～3ヶ月程度）、定期的・反復的に滞在することなどにより、当該地域社会との一定の関係を保ちつつ、都市の住居に加えた生活拠点を持つこと（国土交通省「二地域居住」の意義とその戦略的支援策の構想より引用）
- ※Uターン：出身地ではない学校に進学し、卒業後は出身地に戻って就職すること
- ※Iターン：都市で生まれ育った者が、地方に移り住むこと
- ※Jターン：出身地ではない学校に進学し、卒業後は出身地には戻らず、進学先と出身地の間の地域に移り住むこと

②定住人口の目標の内訳の考え方

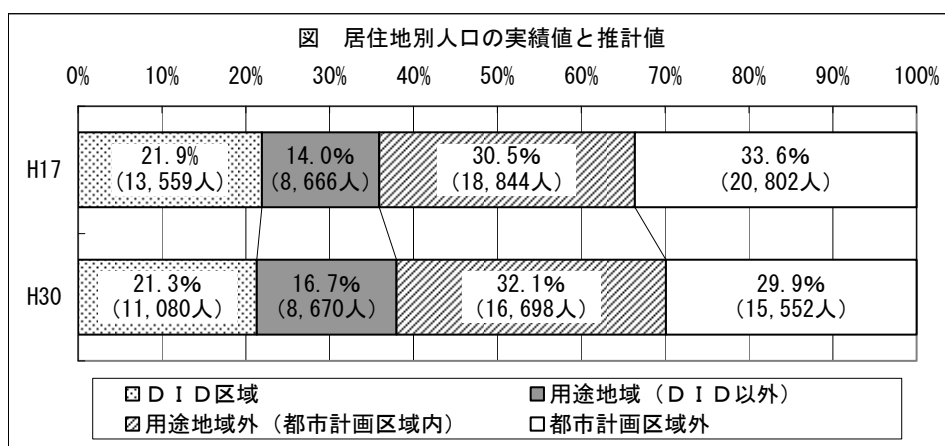
年齢別には、老年人口の割合が増加し、年少人口、生産年齢人口の割合が減少する見通しであり、平成30年には老年人口の割合が37.6%に達すると見込まれています。



注) H30は、第1次七尾市総合計画による推計結果

目標人口については、都市の活力を維持するため、生産年齢人口や年少人口での増加を目指します。

居住地別には、人口集中地区※(D I D区域)内、都市計画区域外の割合が減少し、用途地域内(D I D以外)、用途地域外(都市計画区域内)の割合が増加する見通しです。



注) H30は、S55～H17までの実績値をもとに、直線回帰式によりそれぞれの割合を推計

目標人口については、計画的にコンパクトな市街地を形成するため、用途地域内を中心として、それぞれの地域間のバランスにも配慮した人口の配置を目指します。

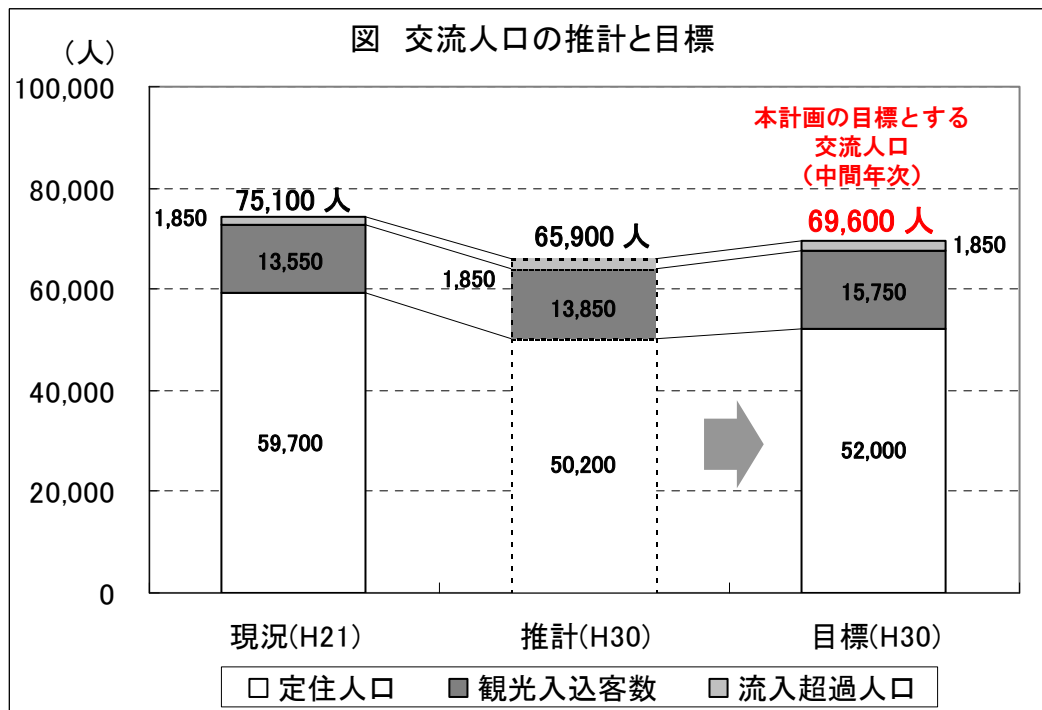
※人口集中地区：人口密度4,000人/k㎡以上で、5,000人以上が集まっている地域

(3)交流人口フレーム

交流人口フレームは、定住人口に、通勤・通学、買物、観光、レジャーなどの目的で七尾市内に来街する人を加えた仮想の昼間人口であり、中間年次である平成30年の目標は、第1次七尾市総合計画での目標値を踏まえて以下のように設定します。

$$\begin{array}{l}
 \text{交流人口} = (\text{定住人口}) + (\text{観光入込客数}) + (\text{流入超過人口}) \\
 \begin{array}{ccc}
 \text{総合計画の目標値} & \text{総合計画の目標値} & \text{現水準の維持を目標に設定} \\
 \text{H30 目標値} & 52,000 & \frac{430 \text{ 万}}{365} \times 1.34 \approx 15,750 & 1,850 & \Rightarrow 69,600
 \end{array} \\
 \begin{array}{ccc}
 \text{年間の観光入り込み客数の目標値} & \text{年間日数} & \text{観光客の平均滞在日数 (「統計からみた石川県の観光」より設定。宿泊客の滞在日数は1泊2日として設定)}
 \end{array}
 \end{array}$$

目標年次である平成40年については、豊かな地域資源を活用した交流を促進するまちづくりにより観光入り込み客数での増加を見込み、平成30年の目標値の維持を目指します。



※それぞれの算出方法は以下の通りです。

定住人口 (H21 実績値) : 住民基本台帳人口 (平成21年10月1日現在)

定住人口 (H30 推計値) : 第1次七尾市総合計画での推計人口

定住人口 (H30 目標値) : 第1次七尾市総合計画での目標人口

観光入込客数 (H21 実績値) : 七尾市全体の観光入込客数 (庁内資料)

観光入込客数 (H30 推計値) : H16~H21の実績値をもとに直線回帰式により推計

観光入込客数 (H30 目標値) : 第1次七尾市総合計画の目標値

流入超過人口※ : 平成2、7、12、17年の実績値より直線回帰式で推計した結果に、近年の出生率の低下を考慮して設定

※流入超過人口 : 他都市から七尾市に通勤・通学する人(流入人口)が、七尾市から他都市に通勤・通学する人(流出口)よりも多い状態を流入超過といい、流入人口と流出口の差を流入超過人口という

4. 将来都市構造

(1) 基本的な考え方

急激な人口減少社会の進展に対応するためには、これまで以上に効率的な都市運営が求められます。

低密度な市街地の拡大は、都市運営コストの増大につながるため、現在の市街地や集落の広がりを抑えるとともに、既存の施設等の集積を活かしたコンパクトなまちづくりが必要です。

あわせて、第1次七尾市総合計画では「人が輝く交流体感都市」を将来像としており、都市マスタープランにおいても“地域の宝を市民が育む「住みたい・訪れたいまち」”を目標としております。

七尾市街地、和倉市街地及び田鶴浜、中島、能登島の各地区の中心部には、歴史や風土、地域の生活文化に根ざした広域的な集客力のある魅力的な交流資源としての地域特性が点在しており、「交流体感都市」の実現には、これらの多様な地域特性の持続に不可欠な地域住民の生活が継続的に営まれていくことが必要です。

このため、七尾市の将来都市構造としては、多様な地域特性を持つ七尾市街地、和倉市街地及び田鶴浜、中島、能登島の各地区の中心部の既存の施設等の集積を活かし、それぞれの広がりを抑えたコンパクトなまちを形成していく必要があると考えます。



(お熊甲祭、向田の火祭の出典は七尾百景プロジェクト)

■ 自然や歴史・文化などに根ざした地域特性 ■

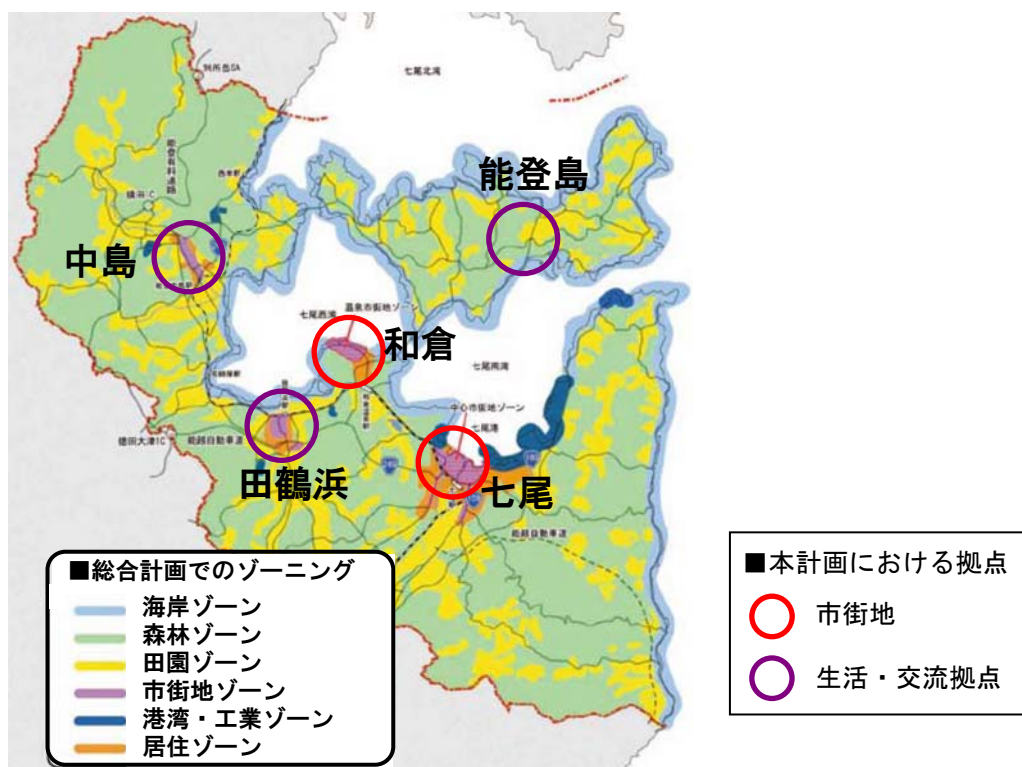
(2)七尾市らしいコンパクトなまちの考え方

基本的な考え方を踏まえて、七尾市らしいコンパクトなまちの考え方を以下のように設定します。

- 多様な地域特性を活かす市街地と生活・交流拠点[※]の設定
- 一体感のあるまちづくりに向けた
交流・連携を支える交通ネットワークづくり

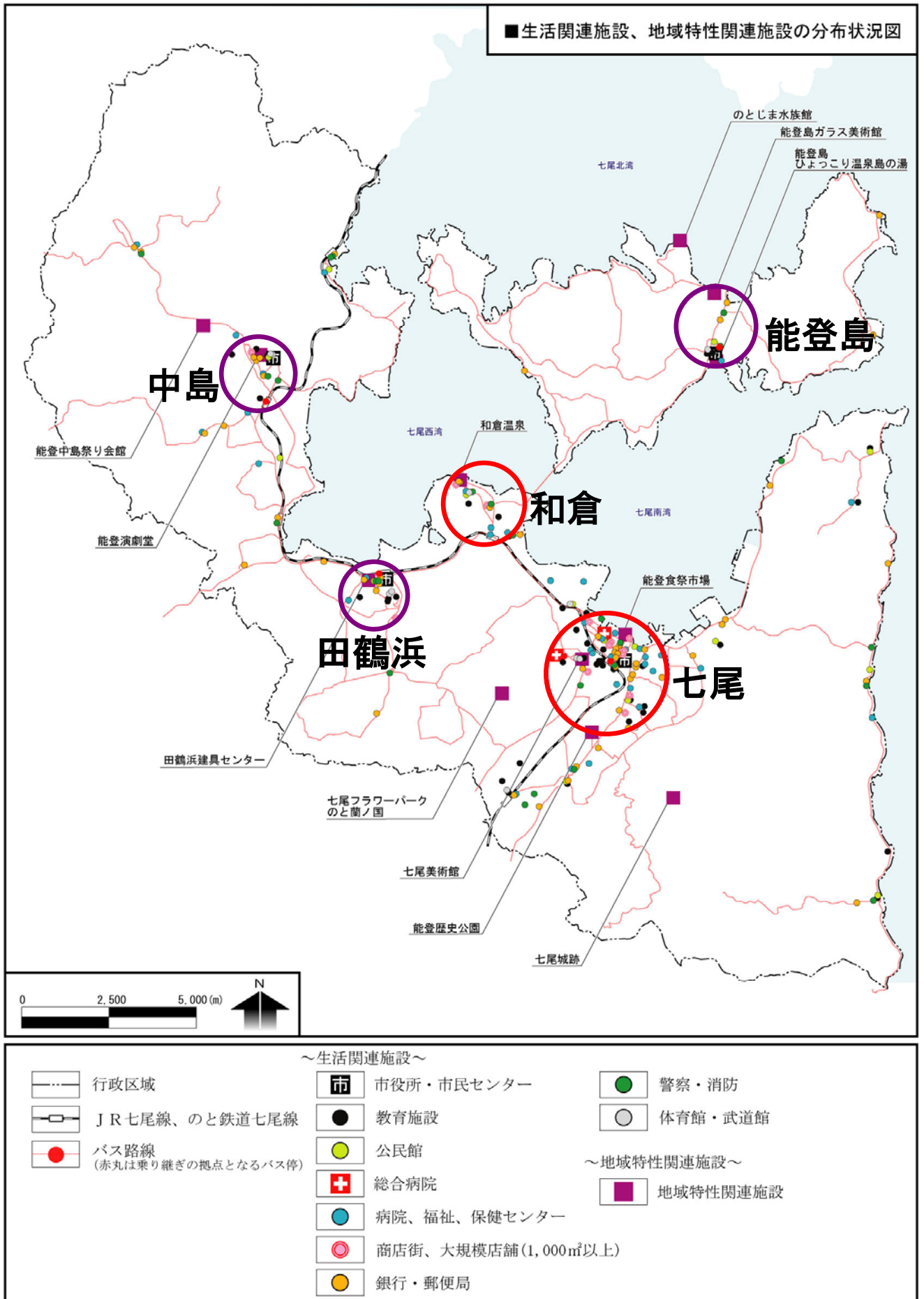
■多様な地域特性を活かす市街地と生活・交流拠点の設定

- ・総合計画では、まちづくりの方針として七尾、和倉、田鶴浜、中島の4つの市街地ゾーンを設定しており、各地域の中心部には、交流資源としての地域特性関連施設に加えて、日常生活に必要なサービス機能を提供する施設も集積しており、各地域の特性と一体となった身近な生活空間にもなっています。
- ・本計画では、これらの身近な生活空間のうち、特に都市的な機能が集積する七尾、和倉を市街地として位置づけます。また、田鶴浜、中島、能登島の各地域の中心部を、多様な地域特性を活かした交流・連携を促進させる機能と、地域の生活拠点として必要な機能をあわせもつ生活・交流拠点として位置づけます。
- ・コンパクトなまちづくりを推進するため、市街地及び生活・交流拠点を形成する既存の日常生活空間の拡大抑制を図ります。



■ 市街地、生活・交流拠点の設定 ■

※生活・交流拠点：地域特性と市民の日常生活が一体となった空間



■一体感のあるまちづくりに向けた 交流・連携を支える交通ネットワークづくり

- ・七尾市内に分布する2つの市街地、3つの生活・交流拠点では、各種生活サービス機能が提供されているものの、人口集積の程度の違いなどから、機能格差があります。
 - ・これらの地域の状況を踏まえ、交流・連携を支える交通ネットワークによって、生活サービス機能の連携環境の向上を図ります。
- また、七尾市周辺の市町村との通勤・通学をはじめとする日常的な交流や、観光、ビジネス等の広域的な交流環境の向上を図ります。
- これらによって、生活・交流拠点の機能を補完し、一体感のあるまちづくりを目指します。
- ・能越自動車道や国道バイパスなどの整備により、自動車交通への対応や七尾港とICとの連携強化を促進するとともに、交通弱者といわれる自動車免許を持たない高齢者や子どもの移動環境づくりとして、公共交通によるネットワークの拡充を図ります。

《将来都市構造》

「多様な地域特性を活かす市街地と生活・交流拠点の設定」、「一体感のあるまちづくりに向けた交流・連携を支える交通ネットワークづくり」を踏まえて、七尾市の将来都市構造を以下のように設定します。

